

散歩の独り言と海水研 OB たち

*A Soliloquy at Walking and Overseas Fisheries Development Meeting for
the Study Alumni 's Memories*

岩崎行伸

我が家の清水/馬走/背戸/裏山の季節の移り変わりを感じることは、身近で楽しいことである。梅の花、桜の開花、ウグイス・ホウジロの初鳴き、スギ花粉。梅の実。桃の実、新茶葉、びわ、セミ時雨・ススキ・栗、柿、蜜柑、紅葉等々、私たちに潤いと癒しと感動を与えてくれる四季の折節の1年ドラマを感じる。そのキャストは、生物的季节の生き物たちの存在である。彼らは、またわが国の野業・農業・茶業・林業等に欠かせぬ貴重な四季の存在でもある。



図1. 散歩コースの桜満開（清水/馬走裏山）

先人たちは、山に桜が咲けば稲の種を撒き、ホウジロが鳴き出せば田を植えた。身近な生き物の行動や生理を細かく観察・経験し、緻密な秀れた農事暦を作りあげている。

現在の野業は、化学肥料や施設・園芸などの普及によって、自然環境との関わりを次第に失いつつあり、山や畑や川は様々な開発で攪乱し、我々が野生生物と触れ合う機会は、随分少なくなった。空を赤く染めるアカトンボも、夜眠れぬほどのカエルの大合唱も、街では到底望めない状況である。

我々は自然界を生活と遊びの場としてきた。山や海の自然の恵みから多くのものを取り出しながら日々の生活水準を発展させている。大昔は弓矢で鳥・魚や獣を狩り、木や草の実を集めていた時代はともかくとして、戦後、農耕・漁労等々が行われるようになると、多くは自身の都合の良いように開発により自然界を作り変えている。それでも、人口が少なく、技術も発展しないうちに、自然界に与える影響は、それほど大きくなかった。

しかし、産業革命後工業・交通手段が急速に発達すると乱開発が始まるのである。昨今、人口の少子化・老人大国となっている日本、果たして何処へ向かっているのかは、よく分らない。ありふれた自然環境と生き物たちに少しだけ視線を向けてみると、幾つかの出会いが待つており、話しかけてください。



図2. 散歩コースの茶畑（清水/馬走裏山）

我が家から10分も散歩すると小高い山頂に出る。その周囲は茶畑と竹林が茂っている。ここから北の方位&東の方位には富士山と清水港を眺めることができる。最近、地球温暖化のせい？表富士山の積雪量が少ないことと、清水港に停泊する風待ちタンカもすっかり減少したようである。西の方位には静岡の街々と新幹線・JR線。南の方位には日本平のデジタル放送鉄塔、よく晴れた日&冬の日には駿河湾・伊豆の山々が眺められる。

さて、海鳴メルマガジン創刊号から今日に至り20号を掲載した。我ながら、ポケ防止と自己啓発を目標としてきたことが今日に至ったと、海鳴編集委員会諸氏に感謝を申し上げる。

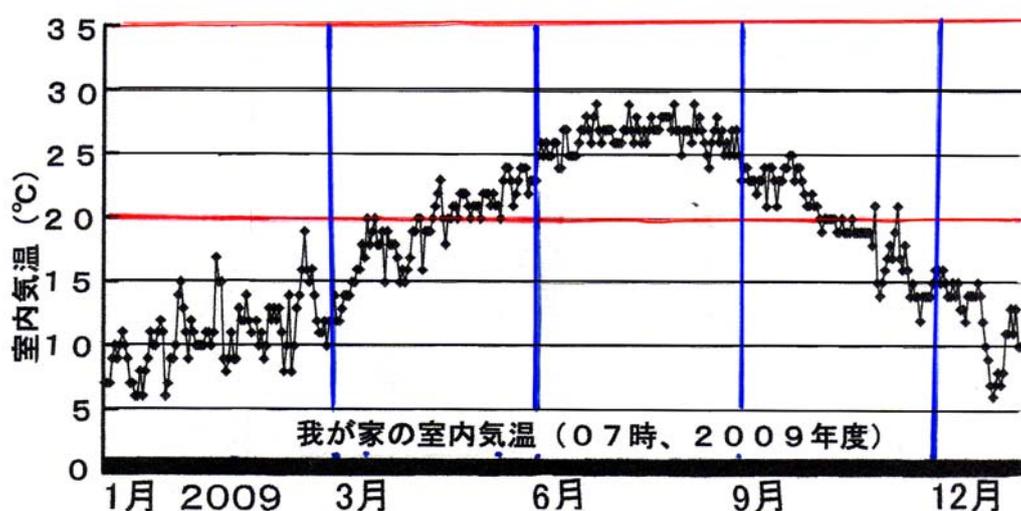


図3. 清水/馬走/自宅室内気温 (2009.07時)

最終的には、この海鳴メルマガジンの永久保存版として CD-R(個別)に収めることを編集委員会でご検討願いたい。この間、決して体調は万全ではなかったが、何とかノルマと責任感と自己満足等に達したと自負している。明日もまた、散歩を継続する。

早いものである、海鳴 OB・故五明良明と永遠の別れをしてからもう7年忌にあたる。彼との思い出として浮かぶことは、小生が東バンク・バ宅で大歓迎を受けたことと、ダウンタウンのスナックカラオケで「黒い花びら」を合唱し学生時に戻った騒ぎであった。先にポナペで調査研究中に彼が追いかけてこられ、ポナペ遺跡一周の折、海外青年協力隊員に会い、生マグロを差し入れる気配し同志として激励されていたことを思いおこす。多忙で日本に休暇帰国できないという.....。

もう一人3年前のことである、海鳴 OB・故福家謙一とは毎年のように年賀状が来ており、元気にポナペで活躍しているものと思っていた。その年賀状が1年なくどうしたものかと心配していた折、海外水産コンサルタンツ協会から、1通の封筒が届き、行方不明1年にあたり彼を忍ぶ会開催事務局からであった。かなりの驚きと戸惑いを受けた。彼との出会

いは、新入生前の頃から海水研、海外とくにポナペに永住することを目標として現地6ヶ月でマグロ調査し卒業研究論文（マグロ基地漁業の現況と魚体）を提出された後、しばしばポナペに渡って釣り漁業面の調査を行っていた矢先。海の出来事のように、実に残念の一言である。何時の日か嫁さんを連れてくるだろう・・・？

海水研・海鳴りは日毎に遠くになりつつあるが、思い出が何時までも心に残る諸氏たちのご活躍の証に合掌で表したい・・・・・・・・・・。

参考図書

- 1) いきもの前線マップ（2005）大人が楽しむ地図帳、（株）技術評論社、今給黎靖夫著
- 2) 海鳴メルマガジン（2008）我が家の庭で生き物ウオッチング、海鳴会、岩崎行伸著

添付資料

図1. 馬走/裏山の桜満開（春）

図2. 馬走/裏山の景観（新緑/茶畑）

図3. 我が家における室内気温記録（清水/馬走、2009、07時）

四季折々：自然環境景観と旧海外水産開発研究会（海水研）